

日本郵便と包括連携協定 地域の活性化に協力を強化



署名を終えた協定書を手に、握手を交わす菅野村長（左）と古屋支社長

村と日本郵便株式会社が包括連携協定を結びました。締結式は、12月2日、村役場で行われ、菅野村長と古屋正昭東北支社長が、協定書に署名しました。この協定は、日本郵便が、全国の自治体を対象に締結を進めていて、防災・福祉・教育などの分野で連携し、相互に地域活性化や住民サービスの向上に取り組むものです。菅野村長は、「全国を網羅する組織との連携は心強くありがたい。情報網が大切な時代にあり、その面でも期待が大きい」と今後の運用に期待を寄せました。



ジャズ・クリスマス・コンサート ジャズが彩った冬の1日

自主文化事業「ジャズ・クリスマス・コンサート」が、12月7日、交流センター「ふれ愛館」で開かれました。はじめに福島高校ジャズ研究部がフレッシュな演奏を披露し、人気の女性アルトサックス・プレイヤー吉野ミユキさんが、クリスマス・メドレーなど5曲を披露。表現豊かな演奏が、約100人の聴衆を魅了しました。アンコールでは、吉野さんのバンドに福高ジャズ研のメンバーも加わって、ジャズの名曲「A列車で行こう」を演奏。会場も手拍子で盛り上がり、楽しい冬の1日を過ごしました。



道の駅で行われた出発式であいさつする菅野村長。式に続いて、街頭キャンペーンがスタートしました

年末年始を安心・安全に 指導隊が街頭キャンペーン

12月16日、飯館村防犯指導隊（菅野敬隊長／関根・松塚）と、村の交通安全関係団体が、年末年始の防犯、交通事故防止の街頭キャンペーンをそれぞれ行いました。出発式では、菅野村長があいさつし「安心して暮らせる村にするには、村民の力が不可欠」と隊の活動を激励しました。防犯指導隊は、村内企業を訪問し、防犯意識を高めました。交通安全関係団体の皆さんには「いいたて村の道の駅までい館」で、来館者にキャンペーングッズを配布し交通安全を呼びかけました。

スポーツを通して国際交流も！ バドミントン交流会

「いいたてスポーツクラブ」（大澤和巳代表／上飯樋）が、11月24日、飯館中学校体育館で、第7回バドミントン交流会を開催。小学生から大人まで36人が参加して、経験者も未経験者も一緒に、男女ダブルス、シングルスのゲームを楽しみました。ゲームは、息の合った好プレーや珍プレーで盛り上がり、コートサイドの応援にも力が入りました。今回は、村の企業に研修に来ているフィリピンの方や村外の方も多数参加。バドミントンを通して、国を超えた交流が和気あいあいと広がりました。



参加者の記念撮影。バドミントンのゲームを楽しむ中で、笑顔の交流が自然に広がりました

今年もにぎわいました 松竹梅の寄せ植え講座を開催

11月26日、交流センター「ふれ愛館」で、樹木医の鈴木俊行先生を講師に、生涯学習事業「松竹梅の寄せ植え教室」を開催しました。今年は紅梅を主役に、オカネ南天、五葉松、福寿草などを配置する寄せ植えです。植えていく際の向きの決め方などを教わり、先生の作品を手本に、受講生がそれぞれの寄せ植えに挑戦しました。最後に先生の手直しを受けて、素晴らしい寄せ植えを完成させた皆さん。今後の管理も教わり、「咲くのが楽しみだね」と言葉を交わしていました。



先生の楽しい指導と充実した内容が大好評で連続開催している講座です

スマート農業・畜産業技術の 最新情報を共有しました

11月29日、交流センター「ふれ愛館」で、県と、福島イノベーション・ココスト構想推進機構による「スマート農業・畜産業技術体験フェア」が開催され、研究機関や関連企業が展示やプレゼンテーションを行いました。先進事例の報告では、県の一元管理システムの実証に協力した畜産家・佐藤一郎さん（大倉）、復興農場を経て現在は「フェリスラテ」代表の酪農家・田中一正さん（長泥）が登壇。講話の中で、復興を牽引した熱い思いや、支援の恩に応える社会貢献活動にも触れ、来場者の共感を集めました。



先進事例の報告も行われました。一元管理システム導入の効果について話す佐藤さん（檀上右端）

村は、村主催のイベントや村民の皆さんの取り組みを取り組みを取材し、広報紙・ホームページ等に掲載しています。写真掲載に不都合がある方は、お手数でも総務課企画係までご連絡ください。